

第 5 章 自由意見

自由記述については意見数が多いため、ここでは各アンケート種類の意見内容ごとに主な意見を分類しまとめている。なお、各調査の意見数は以下のとおりである。

・就学前児童調査	494 件
・小学生児童調査	391 件
・一般市民調査	169 件

就学前児童調査

地域における子育て支援の充実

- ・子育てに関する情報をどうやって手に入れるのかわかりません。このアンケートのように郵送していただくと助かります。市の発行する情報誌では案内が不十分な気がします。利用の対象者かどうかもわかりづらいです。
- ・出産前の母親学級、出産後の育児相談、講習会等、充実していて子育てに力を入れている市だと思っている。
- ・ファミリーサポートのお金の受け渡しが面倒なので、まとめて振込む、又は他の手段を検討して欲しい。
- ・金銭的な負担・利用条件などにより、ファミリーサポートセンターが利用しにくい。手当てや助成制度が全て児童手当の取得制限を適用している事に不満。かたや全て受給される世帯と一切受けられない世帯に分けられるのはあまりに不平等。

保育サービスの充実

- ・保育園の受け入れ人数を増やして欲しい。延長保育時間をもう少し長くして欲しい。
- ・とにかく保育園を増やして欲しい。女性に働く機会を与えて欲しい。入園に関して条件を設けず誰でも子どもを預けられる状態が望ましいと思う。
- ・一時保育をもっと利用しやすくして欲しい。実施している園が少なく定員も少ない。自分が病気や怪我で育児が出来なくなった時を考えると不安な為、保育園の新設・拡大等の援助を真剣に検討して頂きたい。
- ・上の子が保育園に在園中で1歳半までに復帰しないと上の子が退園になると言うのはおかしいと思う。

子育て支援のネットワークづくり

- ・子育てネットワークの充実。サークル活動の情報公開。海外などの国際交流の情報が欲しい。
- ・働きながら子育てをするお母さん向けに講演会やサークルがあって、そういうものに参加しやすい告知があれば良いと思います。
- ・児童館のサークル活動を隔週ではなく毎週して欲しい。

地域における子供の活動拠点の充実

- ・学童が終了してしまった後の子どもの居場所（特に休み中）を作って欲しい。
- ・子ども達が安心・安全な公園を沢山作って欲しい。
- ・小学校で夕方まで預かってくれるような、子どもクラブ等の活動を作って欲しい。

妊娠・出産や母親・乳児の健康に対する支援

- ・市内に産婦人科がとてすくなく、今あるところも医師が減って、対応してくれるのか不安です。第二子以降は子連れでの通院になるので出来るだけ近くがいいです。
- ・医療費（出産・妊婦健診）を無料にして欲しい。
- ・産後の健康診断をしてほしい。
- ・早めの対応が日常的に出来る様な小児科の診察時間がもう少し長くなると良いと思う。
- ・健診をもっとスムーズにして欲しい。

子どもの教育環境

- ・小学校はとても楽しそうですが、中学校に給食施設を希望します。食育が大切になってきている今、中学生にバランスの良い温かい給食を教育の場で皆で学びながら食べる事は必須です。
- ・幼稚園（保育園）と小学校の連携が必要だと思う。小学校低学年までは色々な面で幼児から抜け切れていないので細かいケアが必要と思う。
- ・現在利用したい学童クラブは18時までとなっており、迎えに行く必要があります。有料の19時半頃までの延長保育サービスがあったら心強いと感じる。

子育てしやすい住居・まちの環境面での充実

- ・公園が少ない。あっても小さく物足りない。遊具が古く、整備が行き届いていない。
- ・子ども・高齢者に対して社会全体が冷たい。公共交通機関はベビーカー等を使い難く、子ども二人を連れて利用するのはとても大変。誰も助けてくれない。
- ・上の子（5歳）が自転車に乗れるようになったので、歩道（自転車用の道）の整備をしっかりとって欲しい。具体的にもう少し広い歩道の確保。

仕事と家庭生活の両立

- ・未だに子どもの体調で急に休む事になったり残業が出来ずにいる。保育園のお迎え時間や手助けを見ると、本当の弱者には厳しいシステムではないでしょうか。本当に必要な人達をサポート出来なければ格差が広がるだけだと思う。
- ・育児休業のお休みを貰える人はかりではないので、出産で辞めなければならなくなった時、産休後半年くらいは仕事を探す・体を休めるなどの時間を取る為に子どもが継続して保育園に通える様にして欲しい。
- ・職場の育児支援体制が不完全である。

子どもを対象にした犯罪・事故の軽減

- ・不審者情報を時々耳にします。登下校時や夕方の見回りがあると良い。
- ・市から事故や事件のメール配信はないのでしょうか
- ・犯罪面で気になる事もありますが、皆が声を掛け合い子ども達の成長を見守っていける『街』であって欲しい。

要保護児童に対する支援

- ・母子家庭の支援が足りない。民間の住居だと家賃が高く、小さい子どもが居るだけで拒否される。
- ・障害児でも集団生活に適応出来れば就労条件で保育園へ入れる制度には感謝している。しかし、訓練等が出来る施設は平日のみだったり、送迎が必要だったり、その様な子どもを持

つ親は働くなと言う事なのだろうかと思う。

- ・まだまだ発達障害に対する理解や支援に関する課題は大きいという事はよく認識しているので、皆がきちんと勉強していく事と地域のネットワーク作りの重要性を非常に感じている。

小学生児童調査

地域における子育て支援の充実

- ・友人がいない人はやっぱり子育てしていくのは不安なような気がします。友達づくりのできる場をもっと市で提供してあげて欲しいと思います。地域のおせっかいおばちゃんみたいな人を紹介してあげるといいかもしれません。
- ・子育てするすべての方が、周囲と助け合うことが出来たら良いなあと思います。
- ・子育て支援の支給が小学校で終わってしまうのは厳しい。3人の子供がいるので経済的にも負担が大きいのでせめて中学まで続けて欲しい。就学免除給付金も子どもが多い家庭の年収基準を上げて欲しい。
- ・「入所希望の児童はすべて学童で受け入れる」という西東京のシステムは素晴らしいと思います。あとは学童クラブで一日の開所の開所時間を早くする。閉所時間を延長するなどできればと思う。

保育サービスの充実

- ・保育園、学童（児童館）などを専業主婦でもお願いしたい時に利用できるとうれしい。（せめて病院（婦人科）、具合の悪い時に幼児を連れて病院へ行くのはとてもつらい事です）
- ・保育園になかなか入れないので働くのをあきらめている人が多いです。半日程度の預かりを安くお願いできる保育園が増えるとパートで働くこともできると思います。
- ・当時は気軽に一時保育ができず、病院や買い物に行くにも小さな子を連れて歩かなくてはならなかったのが毎日大変だった。保護者の精神的な負担をかるくするためのサービスを今後行ってほしいと思います。

子育て支援のネットワークづくり

- ・親子で遊べるサークル活動などの場がもっとあるとよかった。
- ・同じ悩みを持つお母さん方と話し合う機会が欲しい。スクールケアの先生に相談に乗ってもらい少し気持ちが楽になりますがなかなか本音を話すことが出来ないのが本音を話せるサークルが欲しい。
- ・転入した場合、子どもの年に合わせたサークルなど紹介して頂けるとありがたいです。

地域における子どもの活動拠点の充実

- ・放課後残って遊ぶ（武蔵野市風でいう）"あそべえ"の様なものはないのでしょうか？是非西東京市も取り組んでください。
- ・子ども達が思いきり遊ぶことができる場所があれば良いと思います。公園はボール遊び等ができず、学校の校庭開放も利用していますが、校庭開放は時間が短いため平日はほとんど利用せずにいます。

妊娠・出産や母親・乳児の健康に対する支援

- ・悩みなどがある時はここから電話ができる相談窓口があったり保健婦さんが個別訪問してくれたらよかったと思う。
- ・実は私は2人目不妊で悩み8年が過ぎています。治療するのは経済的に大変です。西東京市は何か支援して下さっているのでしょうか。何もしなかったらして頂きたいです。
- ・産後の健診に使えるはなバスの無料券とかあればいいです。
- ・初産の後の最初の一か月はうつ病になりやすく周囲に手助けがない人は大変です。この間に助産婦とか保健婦とかの資格のない人でも、子育て経験がある人で充分なので週1～2回家に訪問するような形の支援が切実に欲しかったです。

子どもの教育環境

- ・公立中学生への補助の分を私立中学生へも同様に補助をして平等にして欲しい。
- ・子どもの教育環境の充実をはかりよりよい教育を受けられること。
- ・学校の設備をしっかりと整えてほしい。
- ・中学校での弁当を給食にしてほしい。仕事をしている親がふえた為そういった事に対する助けなどがあると良い。

子育てしやすい住居・まちの環境面での充実

- ・道路が狭い、歩道が狭いです。ベビーカーが押しづらく自転車も走りづらい、危ないです(ふみきりも)整備をお願いします。
 - ・親が見ていなくても家の周りを遊べる安全な町づくりしていただきたいし、子どもが野球、サッカー遊具など体を使った遊びができる広い公園をたくさん増やしていただきたいです。
- 仕事と家庭生活の両立

- ・これからは女性も働く時代となり保育の充実した町づくりが求められていると思います。
- ・保育園の先生や児童の先生に支えていただきながら働けている今は大変幸せだと感謝しております。

子どもを対象にした犯罪・事故の軽減

- ・子どもが犯罪に巻き込まれないよう事故防止など安全性の高い町づくりをして欲しい。
- ・市の対策として子ども達の放課後パトロールを対策として行ってほしいと願います。

要保護児童に対する支援

- ・私は外国人で日本で子育てをする時の情報、さみしさなどもあったのですが、それは夫の支えでなんとかのりきれましたが、外国人の方の子育ては何倍も大変なことがあると思います。このような方への支援もよろしくおねがいします。
- ・障害のある子どももなるべく居住地の近くで親子ともども知人が一番多く出来る状況での生活が可能になる様に支援して頂けたらと思います。

 意識調査（25～29歳）

地域における子育て支援の充実

- ・積極的な、出産、子育て支援を強く願います。
- ・低所得でも安心できる、育児・出産の優遇措置。
- ・育児不安を抱えている親御さんたちにとって、受け皿となる支援センター等の場合は、とても貴重な場だと思います。地域に根付いた支援をするためにも、出来るだけ多くの『場』を作って欲しいと思います。

保育サービスの充実

- ・保育園や学童保育の施設やサービスの充実を望んでいます。私たちのような、祖父母と同居しない家庭にとって、保育サービスの充実は、育児のみならず、生活を送るためにとても重要な部分を占めていると思います。現実には一時保育は市内で空きがなかったり、学童も定員オーバーで困っています。妻が就労したくても預ける場所が無いです。
- ・子どもの保育園に空きが無く、市外の認可へ預けています。これからは共働き夫婦が増えると思うので、少子化とはいえ、保育園の需要が増えると思うので、充実を図って欲しい。

子育て支援のネットワークづくり

- ・1歳児・2歳児の集まれる場所・機会をもっとつくってほしい。例えば、ひがし保育園のこちゃんに行けない子どもや親はどこで交流しているのかと思う。

妊娠・出産に対する支援

- ・子育て支援もとても大切な事だと思いますが、その前に、不妊に対することをもっと考えて欲しいです。何人産んだら援助が受けられるではなく、産める様な治療が十分にできるようなお金の使い方と環境を整えてほしいです。
- ・子どもはまだまだ欲しいのですが、妊婦検診や出産の費用を考えると、一人でいいかと思ってしまう。
- ・今子どもがたくさん欲しいと思う一方、金銭的なことを考えると多くても二人だと思う。出産費用に対する支援を考えてほしい。

母親・乳児の健康に対する支援

- ・医療費免除の対象年齢を引き上げて欲しい。児童手当の増額。もう一人子どもが欲しくても、毎月の育児費用を考えると産みづらい。

子どもの教育環境

- ・小家庭の教育力（躰）の低下が心配。核家族化で親の負担も大きい。行政、学校、市民が連携し、地域で子育てが出来る制度、雰囲気づくりが必要。

子育てしやすい住居・まちの環境面での充実

- ・より安全に、楽しく、笑顔になる、まちづくりを続けてください。
- ・子育てをするうえで、まず環境が整っている事が大切です。子育てしやすい環境作り。例えば、子どもたちが伸び伸びと自由に遊べる公園や緑を増やす。
- ・道が狭いのを何とかして欲しい。
- ・もっと助成金（育児・住宅）の整備をしてほしい。

仕事と家庭生活の両立

- ・ 仕事のために子どもを保育園へ預けるときに、希望する園に100%入れるような環境に整えて欲しい。復帰意欲があったとしても、待機児童の数で不安になったり、復帰の明確な時期を決定できないため、仕事への影響を懸念して、退職を決断するひと多いと思う。少子化にもつながると思う。
- ・ 制度を整備したところで、現実的に子育ての為に支援制度を利用しづらい風潮はまだ根強く残っているように思います。（例えば男性が育児休暇をとる等）未来を担う子どもたちがよりよい環境で過ごせるように、せっきくの新しい制度をもっと当たり前に誰もが利用できるようになってほしいと願います。

子どもを対象にした犯罪・事故の軽減

- ・ 保育園、幼稚園、学校のセキュリティー強化など費用を投資すべきことはたくさんあるはずです。事故が発生してからでは遅いのに、行政の動きの無さには毎度「またか」と思わされてしまいます。

結婚・子育てについて

- ・ 不景気の中、結婚したくても出来ない人たちが大勢いると思います。安心して子どもを育てられる環境・経済力が欲しい。このアンケートを生かして、子どもの育てやすい、住みやすい環境を実現させてください。
- ・ 今後、結婚・子育て等をしていく予定ではあるが、子育てに必要な資金がどれくらいかかるかなど、もっと知れるといいとおもう。

行政

- ・ 市役所の受付時間を、会社帰りでも行ける様に延ばしてほしい。
- ・ 市民税、住民税が高すぎて、不満です。

その他

- ・ 若者の就職難を一刻も早くなんとかしなければならない。
- ・ 今、就職活動に悩んでいる若者が増えているから、今の若者が就職できるようにしてもらいたい。